

平成28年度 地域ケアプラザ事業報告書

1 施設名

日下地域ケアプラザ

2 事業計画

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのようにおこなったのか、具体的に記載してください。

地域の現状と課題について

【日下地区】

日下地区は大きな2つの町内会と5つの自治会で構成され、地域全体の高齢化率は24.8%となり高齢化が進んでいます。一方、新たな戸建て住宅も増え、若い世代も流入してきています。昭和40年代に開発された戸建て団地などでは、高齢化率も高く、独居高齢者の増加が顕著です。平成22年度に閉鎖されたIHI社宅跡地の開発により、203世帯の戸建て住宅が平成29年春から入居開始となります。また同時に、120床の特別養護老人ホームも建設され、医療も含めた総合的な福祉サービスが提供されます。

地域活動の担い手は、高齢化が進んでいますが、地域福祉保健計画の策定を機に、従来の地域活動の方法を見直すことで、若い世代の活動や新たな担い手も参加して、活動の広がりも生まれています。様々な地域活動者が地域課題について話し合い、活動へと繋げる「場」として「日下地域づくり会議」を定期的で開催したことで、「地区計画の推進」「防災・減災への取り組み」「見守り・支えあい」「地域で世代間交流」についての情報交換や検討を「ひした未来カフェ」のような、若い世代との意見交換の場を作ることができています。今後、更に増えていく若い世代や新たな住民をどのように地域との接点を作り活動へと繋げていくかを検討しました。

【日野地域】

当包括が担当とするエリアは連合町内会に加入しておらず、情報収集や伝達については各町内会に出向いて個々に行うことを継続していく必要があります。また、相談の多いエリアとそうでないエリアの差が激しいため、要援護者把握の方法についてはその地域性に基き工夫して行っていく必要があります。

施設の適正な管理について

ア 施設の維持管理について

地域の方々が安心して快適に利用できる施設を目指し、維持管理に努めました。

- ① 専門業者による設備・保守点検業務を協定書に基づき実施しました。
- ② 専門業者による内外の清掃に加え、ボランティアグループ・自治会・町内会の方々・職員による自主活動として外構清掃、草取り剪定などを適宜実施しました。
- ③ 新たに花植え植栽管理のボランティアの活動が始まり、笹釜通り沿いの歩道際への花植え、3階ベランダの管理を行ない、来館者の目を楽しませています。
3階のベランダでの活動には男性のグループも協力しています。
- ④ 経年劣化による修繕が必要となる築年数となっているため、小破を含め職員、利用者も含め注意深く会館の点検・管理を実施し、必要な修繕を行ないました。

イ 効率的な運営への取組について

- ① 職員ひとり一人が省エネ、経費節減の意識を持ち取り組むことで、水道光熱費、消耗品費などを節約することができました。
- ② 部屋利用者にも冷暖房や節電、省エネを呼びかけ、協力を得ることができました。
- ③ 社会福祉法人会計について管理職が学び、経営的な視点を持ち業務にあたりました
- ④ 毎月試算表をチェックして、予算の執行状況を把握しました。

ウ 苦情受付体制について

苦情は、より良い運営への大切な提言と捉え、真摯に受け止め改善に努めました。

- ① 利用者が苦情を寄せやすいよう「苦情受付箱」を設置しています。
- ② 毎年利用者アンケートを実施し、広くご意見を伺い、不備の点については改善に努めました。
- ③ 苦情とまではいかないものの利用者から寄せられた意見には真摯に対応し、改善できることは改善し、難しい点については丁寧に説明し納得していただきました。

エ 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

- ① 緊急時には、どの職員でも対応出来るよう、「緊急ファイル」を準備し、災害に応じた対応ができるマニュアル、連絡先などを管理しています。
- ② 年4回、避難訓練を実施し、地震、火災への対応を繰り返し訓練しました。
- ③ 災害時の「特別避難場所」に指定されているため、マニュアルを整備し、必要な備蓄、防災用品、職員の招集方法、開設までの手順などを定めています。
- ④ 地域の防災訓練と連携し、地域防災拠点から要援護者を搬送する「特別避難場所開設訓練」を実施、実際に障がい者にも参加していただきました。
- ⑤ 「子ども110番の家」「防犯パトロールステッカー貼付」など地域の防犯活動に協力しました。
- ⑥ 施設は浸水想定区域に指定されているため、新たに洪水を想定した「避難確保計画」を策定しました。

オ 事故防止への取組について

- ①事故防止に向けて、常に安全を第1に業務を行ないました。
- ②年間で車両事故が数件発生してしまいました。職員にはそのたびに厳密な注意を行ない、その原因を職員全員で検証しています。
- ③通所介護部門では、毎日のミーティングでヒヤリハットを報告し、業務日誌に記録して、事故防止の取り組みに生かしています。
- ④事故の起きやすい場所を職員が共有し、安全に努めています。

カ 個人情報保護の体制及び取組について

- ①横浜市の個人情報保護施策に従い、職員一人ひとりが個人情報の漏えい、滅失、き損及び改ざんの防止、その他の個人情報の適正な管理のために、必要な措置を講じます。
- ②各種研修会には管理・責任者が必ず出席し、内容を職員に伝達研修しました。
- ③職員に個人情報保護に関する資料を配付すると共に、部署ごとに研修会を実施しました。
- ④個人情報の持ち出しは、「個人情報の持出簿」を作成し、所長、及び、管理者の承認を得ることとしています。
- ⑤ファックスでの情報送信は、個人情報を隠し、必ず2名で送信先を確認しました。
- ⑥上記の手段を講じておりましたが、個人情報の漏洩が発生してしまいました。その原因を究明して職員で共有し、再発防止策を考えました。

キ 情報公開への取組について

- ①ケアプラザでの業務、文書は情報公開の対象となることをふまえ、適切な記録、報告書の作成を行います。
- ②ケアプラザ広報誌、デイサービス広報誌で、ケアプラザの取り組みを広く地域、家族にお知らせしました。
- ③ホームページ、市の施設情報など、定期的に情報の更新を行い、新しい情報を発信しました。
- ④公開の請求があった場合は、市の個人情報の規程に基づき情報を公開します。

ク 人権啓発への取組について

- ①社会には、女性や子ども、高齢者、障害者、外国籍、同和問題や人種など、様々な差別や人権侵害があることを理解し、職員はひとり一人が人権尊重の大切さを理解し、ソーシャルインクルージョンを基本に業務にあたりました。
- ②権利擁護、高齢者虐待について、職員研修を実施しました。
- ③地域に向けて、地域づくり会議主催での「障害の理解」、ボランティアや民生委員向けには「認知症の理解」「高齢者虐待防止」などをテーマとした地域ケア会議や、勉強会などを開催し、人権啓発を行ないました。

ケ 環境等への配慮及び取組について

- ①職員、利用者に冷房暖房の適切な使用を徹底し、電気についても極力必要な所のみにするなど、省エネに努めます。
- ②ゴミは、担当者を決め、市の事業所分別の規程に従い、分別を徹底します。
- ③印刷用紙は裏紙の使用、メモ用紙への転用などで、無駄の無いよう取り組みます。
- ④訪問活動には、自転車、徒歩を推奨し、CO₂の削減に努めました。

介護保険事業

● 介護予防支援事業

《職員体制》

看護師	1名
社会福祉士	1名
主任ケアマネジャー	1名
介護支援専門員	1名

《目標》

- ①地域で暮らす要支援の認定を受けた高齢者が、要介護状態にならないよう主体的に取り組めるプランを作成しました。また、サービス事業書の選定については、公平・中立な立場からの情報提供に努めました。
- ②委託先の事業所と密に情報交換を行い、利用者の把握に努めました。サービス担当者会議には積極的に参加し、適切な支援計画作成のための支援を行いました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

-
-
-

《その他（特徴的な取組、PR等）》

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
169	167	170	171	171	167
10月	11月	12月	1月	2月	3月
165	171	166	161	160	162

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

- 管理者 1名（常勤兼務）
- 介護支援専門員 3名（常勤専従）

《目標》

- 基本姿勢
利用者の尊厳や個人情報に充分配慮し、可能な限り在宅での生活を快適に過ごすことが出来るよう支援を行いました。また、介護者の介護負担の軽減が図れるよう状況に応じて相談や情報の提供等の支援を行いました。
- 連携・協働
利用者の身体状況や環境に応じて、ケアプラザ各部門や各関係機関（保健医療・福祉サービス・行政等）と連携・協働を図り、チームケアにて支援を行いました。
- 社会資源の活用
ケアプラザ内の各部門の協力を得て、地域の社会資源への理解を深め、多様なニーズにも適切な対応を行いました。
- 専門職としての資質の向上
社内外の研修や勉強会に積極的に参加し、一人ひとりが専門性を高め、支援者としての資質の向上に努めています。
- 特定事業所加算の取組み
法令を順守し、利用者が休日や夜間帯でも安心して過ごすことができるよう24時間の連絡体制を確保し、相談支援に取り組みました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 今年度の実費徴収はありませんでした。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ケースの情報共有をきめ細やかにを行い、担当者不在の場合も部門内ですみやかに対応することができています。
- 特定事業所加算の算定を継続し、安定した経営への取組みを行っています。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
122	117	116	118	122	119
10月	11月	12月	1月	2月	3月
116	117	113	111	110	106

● 通所介護事業

《提供するサービス内容》

- 入浴
- 個別機能訓練 I
- 中重度者ケア体制加算
- サービス体制強化加算 I - I
- 介護職員処遇改善加算 I

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担分（2割負担分）

（要介護1）	862円（1724円）
（要介護2）	988円（1975円）
（要介護3）	1117円（2234円）
（要介護4）	1247円（2494円）
（要介護5）	1377円（2753円）

※ その他、

- 食費負担 700円（1回）
- 送迎費用 110円（エリア外のみ1km）
- 紙おむつフラットタイプL 160円（1枚）
- 紙おむつフラットタイプM 140円（1枚）
- 紙おむつパンツタイプL 140円（1枚）
- 紙おむつパンツタイプM 110円（1枚）
- パット 30円（1枚）

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 9:30 ~ 16:30

《職員体制》

- 管理者 : 常勤 1名
- 生活相談員 : 常勤 5名(介護職員兼務)
- 介護職員 : 常勤 6名 非常勤 13名
- 看護職員 : 常勤 2名 非常勤 2名
- 運転職員 : 非常勤 3名
- 調理員 : 非常勤 7名

※平成 29 年 6 月 1 日現在

《目標》

運動生理学に基づいた介護を徹底して実践し、楽しく安全にそして、自立支援につながるサービスを展開していきます。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ① 入浴は午後とし、午前中に全体で体操・レクを行い、一体感を大切にします。また、その間に体調をチェックし、昼食後に安全な入浴を提供します。
- ② 入浴と並行した午後の時間に機能訓練を前提とした様々なプログラムを提供していきます。手先の作業から屋外での行動、体操等、ご利用者の生活をより豊かにしていくことを目指していきます。

《利用者（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
729	723	673	697	700	706
10月	11月	12月	1月	2月	3月
704	680	680	651	612	698

● 介護予防通所介護事業

《提供するサービス内容》

- サービス提供体制強化加算Ⅰ
- 介護職員処遇改善加算Ⅰ

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担分（2割負担）
（要支援1） 1917円（3834円）
（要支援2） 3926円（7852円）

※ その他

- 食費負担 700円（1回）
- 送迎費用 110円（エリア外のみ1km）
- 紙おむつフラットタイプL 160円（1枚）
- 紙おむつフラットタイプM 140円（1枚）
- 紙おむつパンツタイプL 140円（1枚）
- 紙おむつパンツタイプM 110円（1枚）
- パット 30円（1枚）

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 9:30 ~ 16:30

《職員体制》

- 管理者 : 常勤1名
- 生活相談員 : 常勤5名（介護職員兼務）
- 介護職員 : 常勤6名 非常勤13名
- 看護職員 : 常勤2名 非常勤2名
- 運転職員 : 非常勤3名
- 調理員 : 非常勤7名

※平成29年6月1日現在

《目標》

運動生理学に基づいた介護を徹底して実践し、楽しく安全にそして、自立支援につながるサービスを展開していきます。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ① 入浴は午後とし、午前中に体操・レクを行い、一体感を大切にします。また、その間に体調をチェックし、食後に安全な入浴を提供します。
- ② 入浴と並行した午後の時間に機能訓練を前提とした様々なプログラムを提供していきます。手先の作業から屋外での行動、体操等、ご利用者の生活をより豊かにしていくことを目指していきます。

《利用者数》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
160	162	165	157	160	142
10月	11月	12月	1月	2月	3月
140	125	107	108	109	119

地域ケアプラザ

1 総合相談（高齢者・こども・障害分野への対応）

- ①来館者へ積極的に挨拶をし、相談しやすい明るい雰囲気作りを心がけました。
- ②子育て・障害の事業へは積極的に参加し参加者とのコミュニケーションをとるよう努めました。
- ③情報コーナーを整理し、来館者が必要な情報を取りやすいよう心がけました。タイミングを見て適切な情報を提供できるよう努めました。

2 地域活動交流部門・地域包括支援センターの連携（生活支援体制整備事業も含む）

- ①アセスメントシートを更新することにより、地域の状況や課題を知ることができました。
- ②包括、生活体制整備事業、地域交流で5職種会議を開催し、地域課題や個別課題を共有することができました。
- ③総合事業の「地域リハビリテーション活動支援事業」を活用し、理学療法士の先生にお越しいただき「ご近所茶話会」で介護予防の講座を実施できました。
- ④包括・居宅の個別課題を生活支援でピープル日下に依頼、迅速に対応しました。また地域交流、生活支援と協力し、相談者をサロンや健康づくり教室にもつなげて部門間で見守りが出来ました。
- ⑤地域交流事業の参加者の困りごとや心身の変化を包括に情報提供することで介護予防サービスにつなぐきっかけが出来ました。
- ⑥両部門の事業を相互にPRすることで介護予防から地域支援に、地域の個別相談を介護予防につなぎ、閉じこもり予防や健康づくりの推進を図りました。

3 職員体制・育成

- ①指定管理部門については、職員の欠員もなく運営に当たることができました。
- ②生活支援コーディネーターの配置に伴い、コーディネーターが生活支援に異動し、新人の地域交流コーディネーターが着任し、新たな体制となりました。経験を積んだサブコーディネーターや所長の後方支援のものはじめての業務にあたりましたが、広範囲に及ぶ業務内容ですので、年度前半はケアプラザ自主事業等を中心に地域との関係を築いてきました。
- ③包括・地域交流・生活支援の5職種会議を開催し、情報や課題を共有し、それぞれの事業につなげました。
- ④新人職員は積極的に外部研修に参加し、スキルアップを図りました。

4 地域福祉のネットワーク構築

- ①「日下地域づくり会議」を毎月開催し、地区別計画の推進を図ると共に、地域の様々な課題を検討し、具体的な解決方法を探りました。
- ②地区懇談会として年2回、幅広い世代が参加し意見交換出来る場として「ひした未来カフェ」を開催し。地区計画の具体的な実現に向けてのネットワークが広がりました。
- ③生活支援コーディネーターが中心となり、各自治会のサロンなどに参加し、住民のニーズを拾う中で、自治会役員やシルバークラブなどとの関係づくりが進みました。
- ④地域づくり会議主催の「発達障がいの理解」の研修を開催し、地域への理解を広げました。またこれをきっかけに、畑での野菜作りでの生活介護めばえと雑色町内会のつながりが生まれました。
- ⑤生活支援C○が中心となり、地域のサロン運営者、ボランティア、自治会役員との「日下の茶の間」の開催により、いままでつながり薄かったサロン同士のネットワークができました。
- ⑥日下地区子育て連絡会を「気になる子育て」というテーマで開催しました。支援者だけでなく子育て中の母親たちにも参加をしてもらい、当事者の意見が聞ける機会となりました。
- ⑦サークル活動で子育て中の母親のキャリアを生かして「日下元気通信」の作成に携わってもらい、活動の場を提供しました。

5 区行政との協働

- ①「港南ひまわりプラン」推進プロジェクトのメンバーとして地域の状況を共有し、その推進に何が必要かを一緒に考えました。
- ②地区計画の推進状況について、地区担当、支援チームでの情報共有に努め、支援の方向性を共に検討しました。
- ③毎月包括カンファレンスを開催し、支援困難ケースについては情報共有し、連携して支援に当たりました。

地域活動交流部門

1 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- ①アセスメントシートの更新により地域の課題をくみ取れるよう努めました。
- ②広報誌「ひなたぼっこ」を毎月発行し、自治会町内会の班回覧や関係機関への配布によりケアプラザの活動情報などを発信しました。
- ③第3期福祉保健計画と一緒に全戸配布したケアプラザの活動紹介から事業に参加されるなど新たな住民同士のつながりを作ることができました。
- ④法人ホームページやひまわりタネットから情報発信をしました。

2 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- ①部屋利用団体交流会を開催し、団体間の情報交換や関係作りを支援しました。
- ②団体区分ごとのファイルを作成し、所内で共有することができました。
- ③10月の日下たんぽぽまつりと、2月のつるし雛まつりで作品展示の機会を提供しました。
- ④今年度より「子育て広場」を毎週開催し、親子の居場所を提供しました。その参加者に他の事業やサークルの情報を提供し、自主的な活動にもつながりました。
- ⑤子育て事業「ありんこクラブ」の参加者へ他の子育て事業やサークル活動の紹介をし、講座終了後も事業に参加できるよう働きかけました。

3 自主企画事業

- ① 勤労子育て世代の女性向け講座を開催し、地域で活動している人材に講師になってもらうことで、新たな関係作りをすすめました。また、今までケアプラザを利用したことがない人にケアプラザの活動を知ってもらうことができました。
- ② 毎月開催している「ご近所茶話会」は毎回参加者が楽しめる企画を考え安定した事業を実施できました。
- ③ 団塊世代の男性で構成された日下チェッカーズが日下の町を防災の観点で町歩きし防災マップを作成する支援をしました。

4 ボランティアの育成及びコーディネート

- ① シニアボランティアポイントの登録会に100名の参加があり地域の高齢者の社会参加・地域貢献などボランティア活動を促進する機会になりました。
- ② デイサービスでは70歳以上の方々のねじ締めボランティアの活動が始まりました。今後も活動の中で高齢ボランティア自身ができる範囲で役割が持てるような場を創出していきます。
- ③ 12月までに2校の福祉体験の受け入れと、日下小学校3年1組のデイサービスとの交流をコーディネートしました。
- ④ 生活支援体制整備事業が中心となり「ピープル日下」の受付窓口を担当し活動を支援しました。
- ⑤ 「日下元気通信」の作成に子育て中の母親に関わってもらうことで、地域の中で活動する機会を提供しました。
- ⑥ 折り紙グループのボランティアがデイサービスで折り紙教室を定期的 to開催しました。

地域包括支援センター

1 総合相談・支援

総合相談

- ①相談に対しては訪問等を迅速に行い、状況確認をし、適切なサービス、関係機関、医療等と繋げ連携して支援をしています。
- ②継続して支援が必要なケースには、関係機関、地域の民生委員等と連携をしながら安否確認、見守り等の支援を継続して行っています。
- ③ケアプラザから離れている地域に対しては毎月開催されるサロンにて出張相談を継続して行っています。地域の方々、民生委員の方等からの相談を受けており、包括が相談窓口であることの周知にもつながっています。
- ④町内会館にて「介護保険について」等の出前講座を行い包括支援センターが総合相談窓口であることの周知を継続して行いました。

地域包括支援ネットワークの構築

- ①平成28年度は地域ケア会議を4回開催しました。これまでの会議の結果から地域で「声をかけあう関係づくり」が必要だということが見えてきています。また、地域づくり会議やみらいカフェでもそのためにもまずは「あいさつする」という意見があがっています。これらのことから、地域住民有志による「あいさつ推進運動（仮）」を展開しようという働きかけを行っています。この取り組みが、地域の高齢者の見守りにもつながるよう支援をしています。
- ②主に当プラザまで、地の利の悪いエリアの民児協には積極的に参加し、声をかけさせていただくようにしています。そうした中から、現在地域で起こっていることや新たな取り組みなどの情報収集ができています。
- ③生活支援コーディネーターと協働しながら地域の社会資源の情報収集に努めています。収集した情報は適切に管理・ファイリングするとともに、5職種内で共有できるようにしています。

実態把握

- ①相談の少ない地域において、区と社協と連携し地域住民と顔の見える関係づくりに努めました。役員会の集会にも、出向くことが出来、ひまわりホルダーの宣伝・周知ができました。
- ②月一回の出張相談に出向き、地域の方や民生委員・町内会役員や地域の方と顔の見える関係づくりに努めました。
- ③毎月ケアプラザの広報紙を、町内会の役員に手渡す事で顔の見える関係づくりに努めました。
- ④体力向上で自主化したグループや地域のサロンに出向き包括の周知に努めました。
- ⑤地域の情報は、生活支援C○が情報収集にあたり圏域内でのニーズの把握に努めました。

- ⑥地域で認知症の理解を深めたいとニーズがあり、生活支援Ｃ〇と協働で認知症サポート養成講座を開催しました。また、地域で集うが必要とニーズもあり生活支援Ｃ〇と協働で「日下の茶の間」講座を開催し支援に努めました。
- ⑦老人会なし・集会場なしの地域の方が、顔の見えるご近所づきあいが必要とニーズがあり、ラジオ体操を生活支援Ｃ〇と協働で行い顔の見える関係づくりの支援に努めました。
- ⑧介護予防事業に参加がない高齢者専用住宅にて開催したところ、アンケートまでは取らなかったが顔の見える近所づきあいや集う場がほしいとニーズを抽出し実態の把握に努めました。

2 権利擁護

権利擁護

- ①権利擁護の普及啓発となる講座として今年度は1月、2月「エンディングノート」「相続と遺言」2回の講座を行いました。個別相談会も開催し必要な支援に繋げていくよう努めました。
- ②成年後見制度に関する相談に対しては制度について情報提供を行い、申立て支援が必要なケースに対しては家裁への手続き、第三者後見人が必要な場合の手続き等について適時アドバイスを行いました。
- ③ケアマネ等から成年後見制度、消費者被害の相談があった場合は、訪問等を行い状況把握し制度、機関等の情報提供を行っています。申立て支援が必要なケースには関係機関と連携し支援を行いました。また、区長申立てが必要と考えられるケースについては適時区役所に繋げました。
- ④区内包括社福士共催にて老人福祉センター「蓬莱荘」にて福祉相談、出前講座を継続して行いました。

高齢者虐待

- ①個別の虐待ケースに対しては、事実確認し、区役所、関係機関と連携し支援を迅速に行いました。
- ②高齢者虐待防止、早期発見の普及啓発の為に、区内包括社福士共催にて、区内ケアマネ連絡会にてケアマネジャー対象に講座を開催しました。
また、デイサービス等のサービス提供者を対象とした講座も行いました。
- ③「介護者の集い」を毎月1回開催。介護者同士の交流会、講座（医療費、ホームへの入居について、最新の薬事情等）、施設見学等を行い介護者支援に努めました

認知症

- ①地域住民に対し認知症の理解の普及啓発のため認知症サポーター養成講座、出前講座を5回開催しました。
- ②地域の自治会、民生委員、キャラバンメイトの方々生活支援COと連携して初めて講座を開催した地域では参加が総勢60名程となり認知症について関心が高い地域である事が確認できました。来年度も講座等開催を予定しています。
- ③「港南区若年性認知症の集い」は区内ケアプラザ、社協共催にて年2回（11・2月）開催しました。
11月の開催では新たな参加者もあり、アンケート結果からも継続した開催の必要性が確認できました。また市内近隣で「集い」を開催している団体とも連携し情報共有をしています。港南区内で今後はどのような体制で継続していくか検討を進めています。
- ④認知症予防教室「虹の会」が10月から元気づくりステーションとして活動を開始し、区役所と連携し後方支援を行っています。2月には「虹の会」の参加者（他のグループの支援者も含）対象に認知症の方の理解と具体的な対応方法等について講座を行います。

3 介護予防マネジメント

介護予防ケアマネジメント力

- ①委託事業所がケアマネジメント業務を適切に行われているか、サービス計画の原案や評価の内容の妥当性を確認する為に、担当者会議を積極的に3職種で協力し参加しました。
- ②本人の機能を生かした介護プラン作成にあたり、地域の情報やケアプラザの広報紙等で情報を提供し生活機能向上に努めました。
- ③基本チェックリストのモデル事業を施行し、包括連絡会等で報告し情報提供することで、各包括の理解が得られるように努めました。
- ④モデル事業では、介護予防ケアマネジメントAのプラン作成し約3ヶ月で卒業に結びつけました。
- ⑤介護予防ケアマネジメントCでは、地域との繋がりもてる様になりましたが、病状の悪化があり申請に到りました。

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援

地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ①今年度、二カ所の自治会館で介護保険についての説明会を開催しました。具体的な事例を用いて説明したため概ね理解は得られたようです。ケアマネジャーをはじめとする、様々な支援機関があるという情報を提供出来た事で、地域住民の安心にも繋がりました。
- ②日下地区社協の支え合い訪問部会の機会を捉え、ケアマネジャーやサービス提供事業者が地域の状況を把握する機会とし、参加を呼びかけました。ふだんあまり接する機会のない地域住民との会合は、インフォーマルサービスの情報収集につながりました。
- ③連絡票の活用については、日々の相談業務や初級ケアマネジメント講座で呼びかけていますので今年度18件のケースが提出されています。この連絡票があることで、ケアマネジャーにとっては地域と連携を図るための動機付けになっています。
- ④ケアマネジャーと民生委員の懇談会を3回開催しました。

医療・介護の連携推進支援

- ① 28年度は主に、エリア内の医療機関との連携に努めています。特にかかりつけの多い開業医に関しては、ケアマネジャーとの情報交換・連絡・相談の機会を定期的に持てるように、今年6月より毎月1回ケアプラザにお出でいただき「相談タイム」を開催する運びとなりました。その結果、高齢者の在宅生活を支える医療と福祉のチームワークの質が向上しています。
また、近隣の薬局とは各種講座の講師を依頼するなどして、地域住民と接する機会を提供させていただくことで、何でも相談出来る関係を築けるようなきっかけを作っています。
- ② 初級ケアマネジメント講座やケアマネサロンの場で港南区医療機関情報シートの活用に関する呼びかけを常に行っています。更新については、区内で活動するケアマネジャーがどのような情報を必要としているのかについてヒヤリングをしていますのでその結果を踏まえ、在宅医療相談室とも情報交換しながらより良い情報媒体を提供することを目指しています。
- ③ 予定通り「医福ネット」を3回開催しました。会を追う毎に関係性が深まっているように見受けられます。

ケアマネジャー支援

- ① 個別のケースを通じてケアマネジャーの抱える困難さを解決するための、傾聴・助言・同行訪問・サービス担当者会議の出席などを積極的に行ってきました。ケアマネジャーのみならず、サービス事業所の相談にも対応してきました。
- ② 区内の主任ケアマネジャー分科会が高齢支援課と共催し、今年度も新人ケアマネジャーに対する初級ケアマネジメント講座を5回開催しました。業務に必要な法令に関する知識や、相談援助に欠かせない技術やスキルを学べるように企画しました。やむを得ない事情を除き18名の申し込み者がほぼ毎回出席し、新人ケアマネジャーに共通する未熟さや困難さを共有しながら学び合うことが出来ました。
講座終了後には、継続して学びの場を持ちたいとの声があがり、自主学習会が立ち上がりました。
中級ケアマネジメント講座の開催も滞りなく終了しています。
- ③ 区内で活動するケアマネジャーが自ら学ぶための学習会を開催している場に於いて、読書会やスーパービジョンの支援を行ってきました。知識や技術の習得のみならず、それらの会話の延長線上に実務に関する相談が露わになることも多々あり、個別支援のきっかけにもつながっています。
- ④ 区内2カ所の地域ケアプラザで、主任ケアマネジャー分科会主催による「ケアマネサロン」を滞りなく開催しています。ゲストには出来る限り身近な支援機関の従事者を招くことによって、実務に直結できるよう配慮しています。

多職種協働による地域包括支援ネットワーク

- ① 地域ケア会議にはケアマネジャーやサービス事業者のみならず、地域からもボランティア、支え合い訪問活動、民児協、地区社協などに従事している地域住民など、多数の方に参加していただく事が出来ました。様々な立場からの発言が交わされたことで、お互いの役割を理解したり、課題を共有する機会となりました。
- ② 28年度の個別ケース地域ケア会議では、当包括では初めて認知症の本人と家族が参加してくださいました。徘徊の可能性があり、少しでも地域の方に顔を覚えてもらい、何かの折には助けてもらえたらという気持ちの表れでしたが、その場に参加されていた方々からは一様に「力になりたい」という言葉が聞かれました。このことから、本人や家族を中心としたネットワーク構築の意義を見出すきっかけとなりました。

5 介護予防事業

介護予防事業

- ①介護予防普及強化事業8回開催しました。開催していない第三小学校コミュニティハウス5月に2回・ヒルトップ洋光台9月に2回行いました。ヒルトップ洋光台では、参加した方同士が顔見知りになり、挨拶の出来る関係性が築くことができました。
- ②日下ケアプラザの、3回コースは「いきいきシニアサポート講座」としてボランティア育成講座を開催しました。1回目が運動講師による「簡単気軽に出来る体操・セルフケア」2回目「スリーA」3回目「ワールドカフェ方式」で、サロン交流を開催しました。ワールドカフェの中で、担い手の方として課題と感じている事や地域で「こんな事したいね」「あったらいいね」と多数の意見が抽出できました。生活支援C〇と協働で、今回出した意見を実現できる様に、地域に働きかけ「日下の茶の間」3回シリーズで、開催しました。シルバー会長やサロンの担い手の方に参加してもらいました。参加人数も22人~25人と、多くの方の参加となりました。講師も招き、集う場の意義やなにげないサロンのあり方のアドバイスもあり、サロンを運営する方にとって今後の参考になったと思います。この講座にて日下地区で、誰でも気軽に集える場を作りたいと意志のある方を呼びかけ、生活支援C〇と連携し地域の方が集える場づくりが出来る環境を整えていき支援に努めました。
- ③シルバー会も無く集う場が無かった笹下ハイツに、生活支援C〇と協働でラジオ体操を月2回（第1・第3月）開催し継続しています。毎回20~25人の参加者でした。（男性10人・女性15人）
- ④南平台サロン・雑色南サロン・グリータウンすこやか茶話会の、講師の調整や情報提供を行い後方支援に努めました。
- ⑤自主化した体操教室（日野団地健康教室・雑色いきいき体操教室）に出向き活性化の支援に努めました。

6 生活支援体制整備事業

- ①地域で把握した課題とアセスメントシートをもとに地域を分析、包括と連携して住民の繋がりが希薄になった集合住宅で高齢者の見守りや孤立予防のために毎月2回ラジオ体操推進員の協力で「笹下ハイツ元気はつらつラジオ体操」を開始、毎回20名以上の参加で気軽に挨拶ができる関係ができました。次年度は区の元気づくりステーションとして自主化となる予定です。
- ②包括の介護予防普及事業の課題や住民の新たなサロンを作りたい、自治町内会館の有効活用をしたいという地域ニーズに応えるために、自治町内会会長・シルバー会役員・サロン運営に携わる方々に呼びかけ意見交換・交流会「日下の茶の間」を開催。地域の安心できる居場所づくりの大切さを共有する機会となりました。更に「日下の茶の間」から住民主体のサロンを考える検討会として、サロンボランティアさんの住民コーディネーターの視点で地域の課題やアイデアを膨らませる茶の間会議を毎月開催しました。
- ③住民とのふれあい・繋がりを目的に地域活動支援センター「まなび」と共にひまわりを咲かせる取組で高齢者ボランティアさんの生きがいづくりを促進しました。
- ④地域の薬局、保健活動推進委員と連携しボディ測定「日下健康フェスタ」を開催、企業と協働で地域の健康づくりを促進しました。

平成28年度 地域ケアプラザ収支報告書

施設名：日下地域ケアプラザ

	科目	地域活動交流	地域包括支援センター			居宅介護支援	通所介護 予防通所介護 第1号通所介護	生活支援体制 整備事業
			包括的支援	介護予防事業	介護予防支援			
収入	指定管理料等収入	16,954	23,996	151				5789
	介護保険収入				4,923	26,155	102,368	
	その他					232		
	介護予防ケアマネジメント費				4,858		2,056	
	修繕追加分 (介護保険)	111						
収入合計(A)		17065	23,996	151	9,781	26,388	104,424	5,789
支出	人件費	11,718	23,346		3,981	21,998	77,688	3,685
	事務費	1,050	626			1,336	10,981	
	事業費	111	71	151		860	16,829	186
	管理費	6,708	1,790					
	その他	1,436	756			147	939	
	修繕費	100	27					
	運営協議会費	25						
	協力医謝金		630					
	修繕費戻入	374	99					
	委託料				6,319			
消費税	937							
支出合計(B)		21,023	26,589	151	6,319	24,341	106,437	3,872
収支 (A) - (B)		-3958	-2593	0	3462	2047	-2013	1917

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同じように記載をしてください。

※ 指定管理料提案額をベースに作成してください。

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名	①募集対象	自 主 事 業 決 算 額					
	②募集人数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
ご近所茶話会	高齢者	140,620	21,820	118,800	10,568	63,860	66,192
	414						
	200～7000						
みんなのサロンぽかぽか	障がい児者親子	24,705	4,805	19,900	5,568	14,820	4,317
	71						
	200～600						
やさしいパン教室	地域	9,640	40	9,600		9,640	
	8						
	1200						
おはなし会	乳幼児親子	890	890				890
	299						
	0						
日下わくわくちびっこ運動会	乳幼児親子	2,240	2,240				2,240
	83						
	0						
親子でお餅つき	親子	6,127	3,027	3,100		5,007	1,120
	28						
	250						
ありんこクラブ	乳幼児親子	108,780	57,680	51,100			108,780
	428						
	1800						
歌のいずみ	高齢者	17,784	384	17,400	16,704		1,080
	130						
	100～500						
おひさまクラブ	乳幼児親子	534	534				534
	318						
	0						
リフレッシュタイム	地域	26,683	2,683	24,000	5,568	21,115	0
	45						
	2000						

事業ごとに別紙に記載してください。

平成28年度 自主事業報告書

横浜市日下地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ご近所茶話会	<p>【目的】 特に一人暮らし、日中独居の高齢者の地域での仲間作り、介護予防、閉じこもり予防を目的として毎月開催。参加者同士が交流することで地域の知り合いが増え、身近な地域でのつながりが生まれる。</p> <p>【内容】暮らしに役立つ話や、昼食会、おやつ作り、手工芸、音楽鑑賞などのプログラムを取り混ぜて茶話会を開催。年3回はボランティアの手作りお菓子でのおしゃべりを中心にしたお茶会を実施。毎年秋には貸し切りバスでの外出プログラムも実施。</p>	毎月第4金曜日 年間12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
歌のいずみ	<p>【目的】 童謡や唱歌、なつかしい歌などをみんなで歌うことで、心をリフレッシュしたり、参加者同士の交流、世代を超えた交流を行い、地域での仲間作りをすすめる。歌うことによる介護予防の効果も期待される。</p> <p>【内容】 童謡、唱歌、なつかしい歌謡曲などをピアノの伴奏に合わせて皆で歌う。デイサービス利用者も、地域の一員として参加。男性の参加も増え、世代性別を超えた交流が進んでいる。</p>	年3回 6月10月2月に開催

事業名	目的・内容	実施時期・回数
やさしいパン教室	<p>【目的】 パン作りを通して世代間交流をはかる。地域のつながり作り。</p> <p>【内容】 地域にお住いの福永さんを講師にパン教室を開催。若い母親から高齢者まで幅広い年代の方が参加できるようにして交流を図る。</p>	1回 6月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おもちゃの病院	<p>【目的】 地球環境を守るためにも、物を大事にする気持ちをはぐくむ。 定年後の男性の生きがい作り。世代間交流。</p> <p>【内容】 男性ボランティアのおもちゃドクターが壊れたおもちゃを子どもの目の前で修理する。</p>	隔月第3日曜日

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
おひさまクラブ	<p>【目的】 母子の地域でのつながり作り、交流の場の提供。仲間作り、孤立の予防。 日下地区社協との共催。</p> <p>【内容】 多目的ホールを開放し、未就園児と母親が集い交流する場を提供。主任児童委員、保育のボランティア、子供会の母親が支援に入り、気軽に相談などもできるようにしている。笹下南保育園の保育士も都合がつけば参加し相談にのっていただいている。</p>	毎月第2月曜日 年間

事業名	目的・内容	実施時期・回数
公園で遊びましょう	<p>【目的】 母子の地域でのつながり作り、交流の場の提供。仲間作り、孤立の予防。外での開催のため、参加しやすくまた、地域にも活動を知ってもらう機会となる。 日下地区社協との共催。</p> <p>【内容】 笹下中央公園での親子での外遊びを、ボランティア、主任児童委員が支援。</p>	毎月第4月曜日 年間

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おひさま文庫	<p>【目的】 ケアプラザを地域の多くの方々に知ってもらい、気軽に利用してもらうきっかけを作る。福祉保健情報や子育てに関する情報を提供する。</p> <p>【内容】 情報コーナーに戸塚図書館より団体貸し出しを受けた絵本、雑誌、小説、実用書などを地域に貸し出す。手作りおもちゃなどを置き親子で遊べるスペースを作る。</p>	年間 ケアプラザ開館時

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ありんこクラブ	<p>【目的】 一歳児の親子対象の育児講座。9回の講座で、発達の基本を学び、育児の不安解消や、地域での仲間作りをすすめ、地域で楽しく子育てできる環境を提供する。</p> <p>【内容】 発達、栄養、歯科、遊びなどの基本的な講座とそれをテーマにした話し合いや高齢者との交流。終了後はなるべくサークル活動に参加するように働きかけている。</p>	全9回 9～11月

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
おひさま文庫 お話し会	<p>【目的】 親子に絵本の楽しみを知ってもらい、本に親しんでもらう。乳幼児の地域でのつながり作り、仲間作り。絵本読み聞かせボランティア「おひさま」との共催。</p> <p>【内容】 ボランティアが、絵本、紙芝居、パネルシアターを演じ、また、手遊び、わらべ歌などを親子で楽しむ。お話し会終了後、絵本の選び方などの交流会を開催する。夏と冬には特別プログラムのお話し会を開催。</p>	毎月第2火曜日 年間 夏・冬に特別編

事業名	目的・内容	実施時期・回数
親子でお餅つき	<p>【目的】 日本の伝統行事を子どもたちに伝える。 地域の世代間交流。</p> <p>【内容】 正月の伝統行事「餅つき」を地域のボランティア、スポーツ推進委員の協力で親子で楽しむ。お餅はおしるこにして食べる。なるべく父親にも参加してもらい、餅つきも体験してもらう。</p>	年1回 12月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
わくわくちびっ こ運動会	<p>【目的】 ケアプラザを利用している子育てサークル間の交流と、未就園児の地域でのつながり作り。</p> <p>【内容】 笹下中央公園で、未就園の親子対象の運動会を実施。企画や準備は、各サークルが分担して行う。当日はサークル以外の親子も自由参加。乳幼児の保育を「おたすけ隊」や地域のボランティアが担う。</p>	1回 10月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
日下地区子育て 連絡会	<p>【目的】 地域の子育て支援の課題についての話し合いや情報交換を行い、地域の子育て環境の向上や、親子の孤立を防止し、楽しく子育てできるまちづくりを目指す。</p> <p>【内容】 地域の子育て関係者と、母親たち当事者を含めた話し合いを開催。</p>	1回 11月

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
みんなのサロン ぽかぽか	<p>【目的】 障がい児の土曜日の余暇支援。 障がい児親子の地域での仲間作り。</p> <p>【内容】 隔月の土曜日の午後、工作や、お菓子作りなどのプログラムを学生や地域のボランティアと一緒に楽しむ。</p>	隔月第4土曜日 年間

事業名	目的・内容	実施時期・回数
日下たんぽぽ まつり	<p>【目的】 学童保育たんぽぽと共催で、お祭りを開催。 ケアプラザを知ってもらい気軽に利用してもらおうきっかけ作り。地域の交流。</p> <p>【内容】 学童のバザー、布おもちゃボランティアや部屋利用団体の手作り品の販売や活動紹介。</p>	1回 10月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
つるし雛まつり	<p>【目的】 ケアプラザを地域に知ってもらおうきっかけ作り。文化の伝承。地域のつながり作り。</p> <p>【内容】 講習会で作った作品、ボランティア、地域の方々の作品を一同にケアプラザのロビーに展示し、3階では手作りのひな人形や小物を展示。また、セルフ商品やボランティアによる喫茶コーナー、デイサービスの手作り販売などを行う。</p>	2回 2月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
部屋利用 団体交流会	<p>【目的】 部屋利用の団体間の情報交換とネットワーク作り。</p> <p>【内容】 部屋利用の団体の情報交換や活動状況などを話し合い交流する。</p>	1回 9月

平成28年度 自主事業報告書

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
笹下川クリーンアップ	<p>【目的】 地域福祉保健計画の推進。 川の清掃活動に参加することで地域とのつながりや、世代間交流、人材の育成を目指す。</p> <p>【内容】 春と秋に笹下川の清掃を行う。</p>	2回 5月・9月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
川の学校 よみがえれ！笹下川	<p>【目的】 地域の現状に目を向け、世代環境をこえて一つの活動を行うことで、地域の交流と地域活動のきっかけ作りを支援する。</p> <p>【内容】 笹下川に清らかな流れを取り戻し、ホタルが住めるような故郷の川を取り戻す事を考える。 区民企画講座の共催。</p>	6回 6～10月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
リフレッシュタイム	<p>【目的】 ケアプラザを利用したことがない勤労世代の女性に、ケアプラザの役割を知ってもらい、同じ地域に住む同世代と知り合うことで、将来的に地域で活動しやすくなるようなグループ作りを支援する。</p> <p>【内容】 リース作り、アロマテラピー、味噌作りを通して同じ地域に住む同世代との交流を深める。活動を継続できるよう支援していく。</p>	3回 11～1月

事業名	目的・内容	実施時期・回数

平成28年度 自主事業報告書

横浜市日下地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
介護者の集い	<p>【目的】 在宅で家族を介護をしている介護者の孤立化予防及び情報交換、ピアカウンセリングの場とする。介護者の支援を行い、高齢者虐待防止事業の一環として開催。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フリートーク ・施設見学会 ・遠足 ・最新のお薬事情 ・医療にまつわるお金について ・ホームに入居することとは。等 	毎月1回 第1木曜日 全12回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
おとなの未来設計塾	<p>【目的】 定年後、高齢期でも自分らしく生活を続ける為に必要な知識、情報を得る機会とする。権利擁護事業の一環として開催。</p> <p>【内容】</p> <p>1回目 エンディングノート 2回目 相続と遺言</p>	年2回 (1、2月)

事業名	目的・内容	実施時期・回数
高齢者虐待防止事業	<p>【目的】 高齢者虐待防止、早期発見の普及啓発。虐待ケースへの迅速な対応、関係機関との連携した支援の体制作り</p> <p>【内容】</p> <p>①包括カンファレンス（月1回開催）などで情報交換、支援について検討し、関係機関と連携し支援を行いました。 ②港南区ケアマネ連絡会にて、高齢者虐待防止・予防についての講座を開催。 ③月1回「介護者の集い」を開催し、介護者の介護負担を軽減、情報交換、ピアカウンセリングの場としました。 ④地域住民対象に高齢者虐待の現状、防止法、本人・介護者への支援について等、研修を行いました。</p>	①月1回 ②年1回 ③月1回 ④年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
主治医との相談タイム	<p>【目的】 担当エリア内に利用者をもつケアマネジャーに対して、医療と福祉の連携の一環として担当医と情報交換ができる場を設定する。</p> <p>【内容】 予約制で担当医の時間を確保し、ケアマネジャーが顔を合わせて利用者の相談・情報交換を行う。</p>	毎月第4水曜日 (全9回)

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名	①募集対象	自主事業決算額					
	②募集人数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
日下の茶の間	地域住民	65,072	65,072		50,115		14,957
元気はつらつラジオ体操	地域住民	9,448	9,448				9,448
日下健康フェスタ	地域住民	5,000	5,000				5,000
	70						
茶の間会議	地域住民	5,000	5,000				5,000

業ごとに別紙に記載してください。

平成28年度 自主事業報告書

横浜市日下地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
日下の茶の間	<p>【目的】 地域の人と人との繋がりが「助け合い・見守り」となることに視点を持ち、居場所づくりの必要性を地域住民と学ぶ機会とする</p> <p>【内容】 自治町内会会長・シルバー会役員・サロン運営に携わる方に呼びかけ自治町内会館でサロン交流会を開催 講師を招きサロン活動の地域効果や課題意識を捉え、ささえあい・見守りの輪の大切を参加者で共有。</p>	年1回 3回講座

事業名	目的・内容	実施時期・回数
元気はつらつラジオ体操	<p>【目的】 住民の高齢化や団地内の関係が希薄になった集合住宅で住民が集い顔見知りが増える機会を作ること高齢者の孤立予防に努める</p> <p>【内容】 自由参加のラジオ体操を実施、住民同士が気軽に挨拶交わせる関係づくりを推進、包括と区の保健師の連携で次年度より区の元気づくりステーションに繋ぎ住民主体の活動に向けて準備が開始</p>	毎月第1・第3 月曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
日下健康フェスタ	<p>【目的】 薬局の地域支援事業として保健活動推進委員・包括介護予防・薬局・薬品会社と連携、健康測定・個別栄養指導を実施し地域の高齢者健康づくりを促進</p> <p>【内容】 地域の高齢者を対象に血管年齢とストレス測定・体脂肪・筋肉量・水分量測定・骨の強度を測定し参加者のボディをチェック、測定後は個別相談を通して日頃の健康管理に役立てる</p>	年1回 1月

事業名	目的・内容	実施時期・回数
茶の間会議	<p>【目的】 地域事情を把握している住民が主体となって様々な視点から地域課題を捉え、集いの場や孤立防止のための意見交換を行う</p> <p>【内容】 日下の茶の間から呼びかけをし各自治町内会9名が参加、地域にどんな力が潜在しているのかどんな課題があるのか情報を共有しながら共に考え議論・検討する会議を毎月開催</p>	毎月第2月曜 12月より4回開催